霧島市立医師会医療センター　No.203　平成27年11月
薬剤部 DI ニュース

★ステロイド外用剤と副作用について★

Q1、当院には、どのようなステロイド外用剤がありますか？

A1、 ステロイド外用剤は、薬効の強さから5段階に分けられます。
採用薬と薬効による分類を、表1に示します。

【表1】院内採用ステロイド外用剤

	薬効	商品名	成分（製剤1g・1mL中の成分含有量）	備考
強	ストロンゲスト	採用なし		
↑	ベリーストロング	ネリゾナ・ユニバーサルクリーム	ジフルコルトロン（1mg）	
	ストロング	メサデルムクリーム	デキサメタゾン（1mg）	
		リンデロン-VG軟膏・ローション	ベタメタゾン（1.2mg）	抗菌剤含有
↓	マイルド	ロコイドクリーム	ヒドロコルチゾン（1mg）	
弱	ウィーク	採用なし		

Q2、どのくらい使用したら、全身性の副作用が出るのでしょうか。

A2、 ステロイドを使用する際の副作用として、満月様顔貌(ムーンフェイス)や骨粗鬆症を心配する人がいます。
ステロイドの副作用として知る人が多いためでしょうが、これらは全身性の副作用です。
ステロイド外用剤については、塗布により全身性の副作用が生じる可能性のある使用量として、表2のように示されています。
つまり日常診療においては、使い方を誤らない限り、ステロイド外用剤の使用で全身性の副作用は起こりえないことが、ガイドラインなどでも強調されています。

【表2】全身性の副作用を生じ得るステロイド外用剤の使用量

	小児	成人
ストロンゲスト	5g/日以上	10g/日以上
ベリーストロング	10g/日以上	20g/日以上
ストロング以下	15g/日以上	40g/日以上

Q3、ステロイド外用剤の主な副作用はどのようなものですか？

A3、

【表3】ステロイド外用剤による主な副作用

1 表皮細胞増殖や繊維新生の抑制作用によるもの
- ●皮膚萎縮・・・・・ 皮膚が薄くなり、血管が浮き出てみえるようになる
- ●皮膚萎縮線条・・皮膚が線条に薄くなる
- ●ステロイド紫斑・・内出血
- ●毛細血管拡張・・毛細血管が拡張して肉眼的にみえる、皮膚が赤くなる
  ステロイド潮紅・・わずかな温度変化や緊張で容易に顔が赤くなる
- ●酒さ様皮膚炎・・ 赤ら顔。皮膚が薄くなり、血管が浮き上がって赤くみえるようになったもの
  口囲皮膚炎・・・ 口の周りに限局した酒さ様皮膚炎
- ●乾皮症
- ●色素脱失

2 ホルモン作用によるもの
- ●ステロイド痤瘡
- ●多毛

3 免疫抑制作用によるもの
- ●感染症

4 その他
- ●外用剤による接触皮膚炎

・ステロイド外用剤の使用をためらう患者さんが、理由として挙げる項目の1つに、皮膚が黒くなるいうものがあります。
これは、ステロイドの影響ではなく炎症が治まった後の色素沈着であり、時間がたてば薄くなるといわれています。

・ステロイド外用剤による主な副作用（表3）の中には色素脱失こそありますが、色素沈着はありません。
このように、アトピー性皮膚炎が原因となった症状や合併症などが、ステロイド外用剤の副作用と誤解されている例も少なくないようです。

・長期連用による局所の副作用に注意し、疾患の重症度や部位に応じ使い分けるなどの工夫が、ステロイド外用剤を使った治療では重要となります。

※参考：「今日の治療薬2014」
「クレデンシャル　October　2015/No. 85」

（薬剤部　荻尾）